千葉市子どもの生活状況に関する実態調査等業務委託

質問及び回答

更新日７月２９日

No.	質問（原文そのまま）	回答
1	実態調査の子ども向け調査について、「小学生と中学生の設問は異なるものがある」ということですが、調査対象別に小学生向けと中学生向けのアンケートの対象者数はそれぞれどの程度になりそうな想定でしょうか。	小学生と中学生は、仕様書の◆業務委託内容１（２）ア~エの各区分において、半数ずつ対象とする予定です。ただし、対象者が少ない区分については、多少の偏りが生じる可能性はあります。
2	実態調査の調査対象者の氏名について、抽出元のデータベースが仮に住民基本台帳などだった場合、常用漢字以外の漢字を外字で作成している場合が考えられるが、そうなった際貴市と受託者が円滑にやり取りする手段は確立されているでしょうか。	別のデータベースから抽出する予定ですが、外字の対応については、現時点では具体的に決めておりません。市と受託者の間で対応を協議して決定する予定です。
3	資源量把握調査ヒアリングについて、資源量を想定するための各種情報はあらかじめ貴市からご提供いただけるのでしょうか。	把握できる情報については、お渡しします。どのような情報の提供が必要かについては、協議して決めさせていただきます。
4	資源量把握調査ヒアリングについて、ヒアリング対象者像を貴市では想定されているでしょうか。	想定しています。 ただし、市が別途実施する資源量調査（仕様書◆業務委託内容３（３））の結果により、対象者を変更することも想定しています。
5	実態調査の設問は“原則番号選択により回答”とありますが、選択肢内に「その他（　　）」などの自由記述を加える予定はありますか。	自由記述を加える予定です。
6	実態調査の調査票は“A4 両面”とありますが、A3用紙を冊子状に折る形でもよろしいでしょうか。	構いません。

7	実態調査の調査票はコピー用紙に白黒印刷という想定でよろしいでしょうか。	構いません。
8	受取人払いの申請は委託者が行われるのでしょうか。	委託者（市）で行います。
9	実態調査に使用する返信用封筒（長形3号）はのり付封筒を想定されていますか。	仕様書には特に記載はしていませんでしたが、のり付封筒を想定しています。
10	子の回答を封入するのり付き封筒、配布用角2封筒は通常のクラフト封筒でよろしいでしょうか。	構いません。
11	調査票の発送は区内特別郵便や区分郵便を使用してもよろしいでしょうか。	構いません。持ち込みは受託者で行ってください。
12	実態調査の千葉市に返送された調査票を受託者に引き渡す方法はなにを想定しておりますか。（宅配便、受託者が直接取りに伺う等）	受託者に取りに来ていただくことを想定しています。
13	資源量調査ヒアリングでの、“専門的知識を有する人員”とはどのような人物を想定されていますか。（大学教員、NPO の方など）	調査分野に関し専門的知識を有する方であれば、特に資格、肩書は必要ありません。
14	資源量調査ヒアリングの質問項目の設計は対面での打ち合わせはありますか。	対面を予定していますが、状況に応じて、電話、メール等での対応も検討しています。
15	資源量調査ヒアリングはいつ頃行う予定でしょうか。また、5人の対象者に対して、一人一人ヒアリングしますか、まとめてヒアリングを行いますか。どのくらいの時間ヒアリングを行う想定でしょうか。	資源量調査ヒアリングの時期は、11 月~1 月を予定しています。 ヒアリングは一人一人行う予定です。 時間は 1~2 時間程度を想定しています
16	実態調査ヒアリングはどこで行う想定でしょうか。また、受託者が対象者の元へヒアリングをしに伺うのでしょうか、それとも対象者を指定の場所へ招くのでしょうか。対象者を指定の場所に招く場合、受託者が会場を手配する必要はありますでしょうか。	ヒアリングの場所は、対象者の元へ伺うことを想定しています。ただし、対象者の事情により困難な場合には、別の場所で行うこともあります。その場合の手配は、市で行います。

17	実態調査ヒアリングの対象者は市で選定される予定でしょうか。	市で選定します。
18	資源量の把握調査では、調査票の開封作業や入力から受託者で行う想定でしょうか。その場合の記述式の設問数を教えてください。	お見込のとおりです。 記述式は 5 問程度、そのほかに「その他（　）」のような自由記述の選択肢を 5 問程度想定しています。
19	クロス集計で行う軸（性別、居住地別等）はどのくらいの数を想定されていますか。	クロス集計の数については、協議して決定します。
20	過年度に同様の調査は行われていますでしょうか。行われている場合、過年度データを提供していただくことは可能でしょうか。	平成 28 年度に同様の調査は行っておりますが、資源量調査は行っていません。設問についても、内閣府の「国の子供の貧困実態調査」の共通調査項目を参考に作成する予定であり、従前のものから大幅に変更する予定です。 なお、過年度の実施状況については、 https://www.city.chiba.jp/kodomomirai/kodomomirai/kateishien/documents/02_chapter2.pdf の 21 ページ以降を参照してください。